

都民の化学物質等摂取状況調査結果報告書

食事由来の化学物質等摂取量推計調査結果
一般的な生活環境からのダイオキシン類ばく露状況の推計結果

(平成11年度から平成26年度までの16年間のまとめ)

平成28年3月

 東京都福祉保健局健康安全部環境保健衛生課

はじめに

現代の生活では、多くの化学物質が私たちの身の回りに存在しています。これらの化学物質は、私たちに豊かで快適な生活の恩恵を与えてくれる一方、環境汚染の原因となることがあり、ヒトへの健康影響が懸念されるものもあります。その化学物質のヒトへのばく露は、食事が主要な経路の一つであると考えられています。

東京都は、廃棄物焼却施設等から排出されるダイオキシン類による環境汚染が社会的な問題となったことを受け、都民の食事を介した摂取状況を把握するため、「東京都ダイオキシン類対策取組方針」に基づき、「食事由来の化学物質等摂取量推計調査」を開始しました。加えて、食事だけでなく、水、大気、土壌からの摂取を含めた「一般的な生活環境からのダイオキシン類ばく露状況の推計」も実施し、ダイオキシン類の都民への健康影響について把握に努めてきました。

また、「食事由来の化学物質等摂取量推計調査」については、いわゆる「環境ホルモン」と呼ばれ、世間の反響が大きかった内分泌かく乱作用が疑われる物質、食品の安全性についての都民の関心が高い残留農薬や食品添加物、国の実施する調査において検出率の高い PCB 及び重金属を調査対象に加える等、随時調査内容を見直し、調査の実施と結果の公表に取り組んできました。

さらに、平成 23 年に発生した福島第一原子力発電所の事故を契機に、健康影響についての都民の関心が高まった放射性物質（ γ 線放出核種）を調査対象に加え、これまで継続して調査を実施しています。

本報告書は、平成 11 年度から平成 26 年度までの「食事由来の化学物質等摂取量推計調査」及び「一般的な生活環境からのダイオキシン類ばく露状況の推計」結果を取りまとめたものです。

本報告書が都民の皆様、関係機関等に活用されるとともに、化学物質等についての問題解決の一助となることを期待します。

最後に、本調査の実施に当たり、評価と助言をいただきました東京都環境保健対策専門委員会化学物質保健対策分科会の委員の方々に心から感謝申し上げます。

目次

第1章 食事由来の化学物質等摂取量推計調査結果	1
第1 目的	1
第2 調査方法の概要	1
第3 調査結果及び考察	10
1 ダイオキシン類	10
2 残留農薬	12
3 PCB	14
4 重金属	15
5 内分泌かく乱作用を有することが推察される物質	18
6 食品添加物	20
7 放射性物質（ γ 線放出核種）	28
第4 まとめ	31
調査結果図表	
ダイオキシン類	32
残留農薬	43
PCB	45
重金属	49
内分泌かく乱作用を有することが推察される物質	65
食品添加物	69
放射性物質（ γ 線放出核種）	73
耐容摂取量等及び評価機関等	79
第2章 一般的な生活環境からのダイオキシン類ばく露状況の推計結果	81
第1 目的	81
第2 調査方法	81
第3 各経路における調査方法	81
第4 各経路からの摂取量の計算	82

第5	PCDDs、PCDFs 及び Co-PCBs 別に見たダイオキシン類濃度	83
第6	都内におけるダイオキシン類のばく露状況	83
第7	まとめ	83
	調査結果図表	84

資料

	用語説明	88
	《参考資料》東京都民の健康・栄養状況（食品の摂取状況）	91
	東京都環境保健対策専門委員会化学物質保健対策分科会委員名簿	92